



西新潟中央病院

NST NEWS 第101号

NST: Nutrition Support Team

発行日: 2023年1月11日

担当: NST委員会

編集: 栄養管理室

連絡先: 内線 1302

NSTミニレクチャー第71回 ～静脈栄養法について～

月に1度の栄養の勉強、NST ミニレクチャーのコーナーです。

今回は静脈栄養法についてです。

静脈栄養法の当院採用の主な輸液と適応をざっくりと下の表にまとめました。

2500Kcal ～ 1200Kcal	中心静脈	エルネオパ1号2号	栄養状態不良 7日間以上の経口摂取が不可能 蛋白異化が強い場合
1200Kcal ～ 600 Kcal	末梢静脈	イントラリポス ビーフリード フィジオ 35	
500 Kcal ～ 400 Kcal	水・電解質 維持輸液療法	ソルデム 1,3A ラクテック	主に水分、電解質の補充 蛋白異化を抑制する 最低限のカロリー

※その他、血漿増量剤、浸透圧性利尿剤

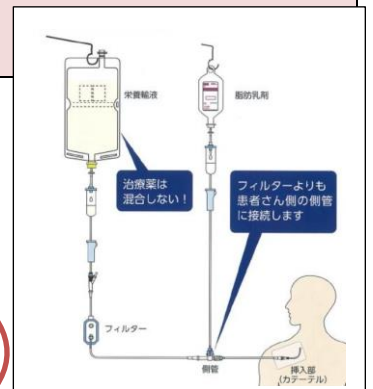
今回は特に末梢静脈栄養に使われる輸液について説明していきたいと思います。

	ビーフリード®	イントラリポス®	フィジオ 35®
エネルギー量	210Kcal/500ml	200Kcal/100ml	200Kcal/500ml
浸透圧比	約3	約1	約2-3
特徴	糖に加えてZnを含む 電解質やビタミンB1 アミノ酸が入っている	必須脂肪酸欠乏症予防 少量で高カロリーが確保 できる	基本的にソルデム 3A の糖濃度を高めたもの。 Ca.Mg.Pなどが含有さ れている
注意点	脂肪不足による皮膚炎 を起こす可能性がある 高浸透圧のため静脈炎 のリスクがある	脂質異常症患者、血液凝 固障害患者には禁忌 <u>投与速度が決まっている</u> <u>(0.1 mg/kg/hr)</u>	ビタミンやアミノ酸が含 まれていない

イントラリポスは単独ルートじゃなきゃダメ？



実はルートは単独じゃなくても大丈夫!!
むしろビーフリードなどの栄養輸液の側管から投与
すれば静脈炎のリスクも減らせて
カロリーもアップして一石二鳥!!



大塚製薬工場 HP より引用

≪ 文責: 薬剤部 青山 ≫